修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝来紀
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（幌ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

運動の推進を誓う

思い出あらたな賢島

全修協・創立15周年

盛大に記念総会

財団法人・全国修学旅行研究協会の創立十五周年記念総会（第十二回総会）は二月五・六日、三重県志摩郡阿児町賢島の新賢島ロッジと賢島荘に多数の来賓をはじめ役員、全国各都道府県支部長、友誼協力団体などから約百二十名が参集して開かれた。賢島は設立総会を開催した思い出の地。同じ場所でふたたび開くこの十五周年記念総会こそは今後の躍進を約束するものとして意義深い。会議は終始なごやかなうちに進められ、新時代に即応する修学旅行の改善と向上、一万名達成を目標とする教職員研修旅行の方針確立など重要議案を審議のうえ満場一致で可決、十六年目の運動推進に大きな成果をあげた。翌六日は閉会後、伊勢スカイラインの視察と伊勢神宮を参拝した。（関係記事と写真・二、四面にも）

全修協創立十五周年記念総会
全修協

盛大に開かれた全修協創立15周年の記念総会（伊勢賢島で）

二月五日、定刻の午前十時半、創立十五周年記念総会は仲沢常務理事の開会宣言によって始まり、地元の西山三重県支部長の挨拶、議長団に田尻貴（宮崎）小沢一郎（福島）また議事録署名人に北条虎雄（栃木）近藤清（徳島）の諸氏を選出したあと、宍戸一郎氏（山形）によって誓いの言葉がのべられ、一同は修学旅行と全修協関係の物故者に対して黙祷を捧げた。

山本理事長が挨拶に立ち〝十五年の歴史をかえりみ、新たな前進を決意している〟と述べる表情には心なしか十五年間の労苦がにじみ出て、感慨もひとしおのようだった。

続いて表彰にうつり永年勤続支部長を代表して岡田憲一郎氏（埼玉県）に、また、万博を含む研修旅行活動にすぐれた成績をおさめた十二支部に金、銀、銅の各賞、特別賞、永年勤続の事務局職員それぞれに山本理事長から賞状と記念品がおくられた。

このとき岡田憲一郎氏から「山本理事長の熱意と努力が今日の全修協をあらしめた。よって理事長に対し感謝の意を表すべきだ」との緊急動議が出された。全員もこれに賛成、その具体的方法は理事会に一任することに決定した。続いて新支部長、参与、地区協議会長、中央研修部幹事の委嘱も行なわれた。

来賓祝辞で衆議院議員原田憲氏は全修協の運動を讃え、今後の活発な運動展開を望んだ。続いて田中三重県知事の代理として田川副知事ら八氏がそれぞれ十五周年の輝く業績に対し心から祝福の言葉をおくった。坂田文部大臣をはじめ修学旅行関係各界からの祝電も披露された。

白浜事務局長の一般会務報告、会計監査報告のあと議事にはいり第一号から第五号議案を審議の上、満場一致で可決承認。休憩後、伊勢市神宮文庫の岩田貞雄氏による志摩の民話〝海女のはしりがね〟と題する記念講演があり、続いて同夜は賢島荘大ホールで〝記念の夕べ〟が催され、伊勢音頭など郷土色ゆたかな芸能が上演され、全員は会議の疲れをいやした。

翌六日は午前八時半から閉会、全議事を終了。山本理事長と議長団が挨拶、河野理事の発声で万歳三唱、高田理事の閉会宣言で二日間にわたる記念総会を予定通り終了した。

閉会後一同はバスで伊勢スカイラインを見学、伊勢神宮に参拝したあと、また来年の再会を誓って解散した。

今回の創立十五周年記念総会が発足の地・伊勢賢島で開かれたことは大きな意味を持っており、全参加者も全修協に課せられた使命の重大さを認識し、議案の審議に臨んだ。かくして全修協の運動は青年期を迎えたわけである。

喜びの日迎えて

理事長　山本種一

挨拶要旨

本日ここに全修協創立十五周年記念総会の開催にあたり、前運輸大臣原田憲先生をはじめ多数の来賓、全国各地から支部長の同志諸君、さらに協力諸団体会社の方々のご臨席を得ましたことを非常にうれしく存ずるとともに遠路のご足労に対し深くお礼を申しあげる次第であります。

この賢島は十五年前、全修協が運動にのり出すために設立総会を開いた記念すべき地であり今回の十五年周年記念総会も思い出を新たにし、さらに前進への門出といたしたいとの気持から選んだものでありますが、私と同じく多くの同志諸君も遥かな昔をしのび感慨無量なものがあると存じます。

全修協にとっての十五年は闘いの歴史でもありましたが、幾多の障害をのり越え、困難を克服しつつ本日を迎えることができましたのは寸暇の絶えることのないご協力と関係当局、諸団体から寄せられた愛情によるものに外なりません。あらためて厚くお礼を申しあげます。

修学旅行は戦後の不備な環境条件をのり越えつつ特別教育活動としての体制を整えてまいりましたが、紫雲丸、相模湖事件などが発生するに至り、これらの不祥事絶滅のため当時各都道府県教育委員の任にあったわれわれ同志は立ち上り、協会設立を決定したのであります。

いらい十五年、全国に支部組織を完了、修学旅行に関する調査研究をはじめ専用電車、船舶の設定などを行ない、本年度までに約六百万名の児童生徒の安全輸送をしました。また、修学旅行の指導力向上のため現地研修に加えて福利厚生を目的に全教職員を対象とする研修旅行を実施、教育界の強力な支持によって本年すでに十五回を迎え、参加された教職員は七万名を突破しております。それらの教職員が教壇から児童生徒に貴重な体験を伝え得たものと信じ、深い喜びを感じます。今後さらに十五年の経験を生かし、新しい時代の修学旅行のあり方を追求していく覚悟であります。

意義ある修学旅行に

祝辞

衆議院議員
前運輸大臣
原田　憲氏

原田　憲氏

本日は意義深い賢島で十五周年の記念総会が開かれるに当りお招きを受け光栄に存じています。かえりみれば十周年記念総会の折私は貴協会から感謝状をいただきました。国会議員として仕事をするのは当然のことなので非常にうれしく思いました。

昨年は万博の年でしたが、予期以上の大成功をおさめることができ委員長の私としてこの上のない喜びでありました。これも皆さまのご支援の成果だと厚くお礼を申しあげます。万博会場では児童生徒たちが各パビリオンを熱心に見学している姿を拝見し、そのたくましい意欲には驚いたしだいです。百聞は一見にしかずとはこのことでしょう。

昔は自分の土地から離れることが少なかったが、今ではどこへでも自由に早く行ける時代になりました。修学旅行の内容も形式も変わっていくことと思います。この意味から貴協会の今後のご活躍をせつに祈ります。

風紋

土曜の夕方、新宿で友人と会う約束があってでかけた。駅の中もそとも人いきれがするほどだ。この人の渦を気をつけて見ると、若い人が多い。その姿はいろいろであるが、大きな流れとなって海鳴りのような響きをたてて流動している▼長いこと世界の国々を見てきた友人の話によると、新宿のように若いエネルギッシュなさかり場はどこにもなかったという。日本人の底しれない生活力の噴出口かもしれないという話だ。新宿は雑踏の街、フーテン族などのはびこる汚れたところという先入感を払い去って、別の感覚で見直すと別に見えてくるから面白い▼「ディスカバー・ジャパン」、日本を見直そうと国鉄はよびかけているが、これはポスト万国博の観光客対策の知恵ではあろうが、それはそれとしてこの構想は大切なことだ。とらわれない新鮮な目と耳で、日本のいろいろの姿を見直すということは、いうべくしてむずかしいことだが、その意識を持ちつづける必要がある▼週刊朝日の二月十九日号は、「天皇は玄海灘を越えてきた?」―ナゾの四世紀をめぐる建国の内幕」の記事をのせて、二月十一日の建国記念の日によせて日本の成立に問題提起をした。これもひとつのディスカバー・ジャパンとして歓迎さるべきものである。この記事の中で、金達寿氏の「箱根」も「武蔵」も朝鮮語であるという説をとりあげ、日本古代史の新しい証人をたてて、いかに日鮮の民族、歴史、文化がかかわりあい、重層しあっているかを掘りおこしている▼建国記念の日が、明治紀元節の賛否の論争や集会やデモでなく、一九七一年の時点で日本の夜明けの姿を見直す、ディスカバー・ジャパンの日としてとらえられることは、教育の立場としても極めて重要である。教師や生徒の「旅」がほんとうのディスカバー・ジャパンの意味をさがし求めることは何にもましてのぞましいことだと思った。

充実した修学旅行
ツーリストをお役立てください
ツーリストでは意義ある行事をさらに充実させるために、事前、または事後学習用として"修学旅行映画"シリーズを製作しております。
●修学旅行映画シリーズ
奈良　京都　京都の庭園　富士箱根　日光
大和の国なか　大和の塔　火とみどりの国
瀬戸内海　みちのく　大和の道　大和の石
（いずれも文部省選定、16ミリカラー、上映時間25〜40分です）
電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口　「登録第20号」
近畿日本ツーリスト

修学旅行の学習効果向上のために
全船冷暖房完備の修学旅行専用船
わかば丸・ふたば丸
旅客定員805名・1,100トン
●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！
関西汽船
●お問合せは…大阪（441）9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

15年の歴史刻んで

青年期への第一歩

同志の意気も高らかに

十五年まえ、ほどばしる教育への熱情を秘めて旗あげした思い出の地・賢島は明るく晴れわたった青空のもと、早春の海がみどりの島々をやさしく抱きかかえていた。完成したばかりの新賢島ロッジが第一会場、また第二会場の賢島荘はむかしのままのたたずまい、十五年ぶりのなつかしさが参加者の胸にこみあげる。式典につづく総会、記念講演や郷土芸能の披露、朝熊山の伊勢スカイライン見学と伊勢神宮参拝など二日間にわたる有意義で多彩な日程だった。

一万名動員へ　研修旅行

咲き乱れる黄色いスイセンの花、静かに澄んだアゴ湾、ここ賢島は公害もなく、十五年前と少しも変わらない。

全修協の歴史の一ページを飾ったこの美しい賢島に再び集った同志の顔の晴れやかさ。会場にははなやかな空気がみちている。

この日を祝うため来場した来賓と堅い握手をかわす山本理事長の顔もうれしさでいっぱい。

白滝事務局長の行なった一般会務報告の中でとくに注目されたのは「新幹線による修学旅行の割引を小学生にまで適用するよう運動を進めている」こと。また「要保護児童生徒に対する援助費は全修協や関係方面の努力で増額をみたが、今後もさらに実情に即した額にまで引きあげる運動を進める」の二点と、「研修旅行について昨年は万博を含めて一万名を突破したことにより本年もこの線を確保したい」と述べたことだ。

これらを含む本年度の議案は満場一致で可決し、修学旅行の対策はいよいよ軌道にのったほか、研修旅行の一万名動員も全支部、協力団体の支援によって推進されることになったわけでこの十五周年記念総会を契機として全修協運動は青年期への突入を示すものとして教育界から期待が寄せられるに至った。

山本理事長から優秀支部表彰を受ける代表の岡田埼玉県支部長。

役員会ひらく

役員会は四日午後賢島荘で開催し十五周年記念総会（第十二回通常総会）の提出議案などを審議決定した。

全役員再任さる

常務理事に白滝氏

本期をもって全役員は任期満了となるが総会の決定に基づき全員が再任された。なお理事白滝末紀氏は常務理事に、常務理事岡本仁氏は理事に就任、白滝氏は事務局長を兼務する。

〝15年の歩み〟

関係者に贈呈

全修協では創立十五周年にあたり運動の歴史をつづった〝十五年の歩み〟を発行、関係方面へ贈呈した。B5判、総アート、オフセット印刷の三十二ページ。

研修旅行に成果

永年の勤続者にも　表彰

創立十五周年記念総会にあたって全修協では万国博研修をふくむ研修旅行の会員獲得に大きな成果をあげた十二支部にたいし山本理事長から表彰が行なわれた。このうち〝万博教育推進協議会〟設立の母体となり、十万名動員に画期的な成功をおさめた三重県支部（西山支部長）は特別表彰を受けた。＝以下敬称略

研修旅行関係

【金賞】茨城県支部（永井熙支部長）

【銀賞】千葉県支部（狩野政一支部長）青森県支部（盛田三喜雄支部長）

【銅賞】福島県支部（小沢一郎支部長）山形県支部（宍戸一郎支部長）静岡県支部（木村愛一支部長）大阪支部（石川為蔵支部長）

万博研旅関係

▽福島県支部（小沢一郎支部長）▽茨城県支部（永井熙支部長）▽千葉県支部（狩野政一支部長）▽青森県支部（盛田三喜雄支部長）

▼同特別表彰

▽三重県支部（西山文男支部長）

永年勤続者

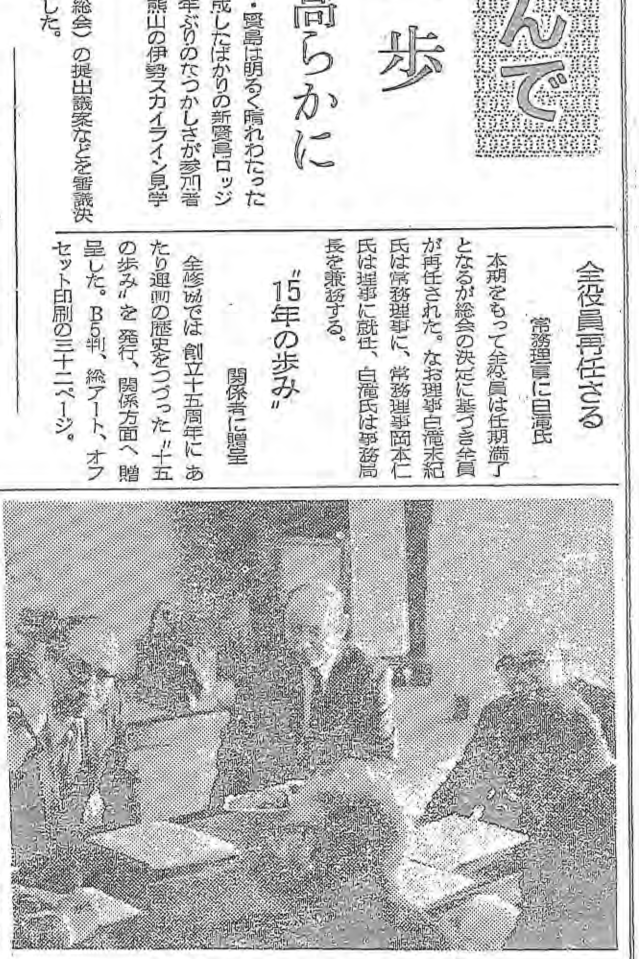
支部長

▽青森・盛田三喜雄▽宮城・高橋富士男▽群馬・北村三喜▽埼玉・岡田憲一郎▽千葉・狩野政一▽東京・青山良道▽山梨・五味一男▽愛知・宮木秀吉▽大阪・石川為蔵▽和歌山・宮所恒楠▽鳥取・伊佐田甚蔵▽香川・吉田一三▽高知・中沢為之▽大分・田尻一雄▽宮崎・田尻貢。

（注）支部長でも役員の場合はこれにふくまれない。

本部事務局

▽経理部長・金谷幸子▽事務局長・白滝末紀▽大阪事務所長・小西惣二郎▽同職員・坂井美恵子▽広報部長・早川泰雄。



総会の前日４日に開かれた役員会。

来賓

原田憲（衆議院議員、前運輸大臣）宮本一二（三重県教育次長＝浜口教育長代理）田川亮三（三重県副知事＝田中知事代理）江見義雄（全教互団体協議会長）阿部憲司（三重県教育委員会指導課長）福本博郊（三重県教育委員会福利課長）大森啓仁（原田前運輸大臣秘書）土方大武（近鉄名古屋営業局運輸部長＝三輪営業局長代理）野口泰良（近畿日本ツーリスト中部営業部長）北山芳紀（近畿日本ツーリスト津営業所長）加藤勝己（近畿日本ツーリスト宇治山田営業所長）林幸雄（近畿日本ツーリスト名古屋修学旅行センター所長）森本利男（奈良交通観光部営業第一課長＝高橋社長代理）加藤茂（三重交通観光自動車部長＝田中社長代理）山本一男（大島運輸東京支店長＝有村社長代理）前川武（三重県観光開発株式会社取締役業務部長＝玉置社長代理）藤原実（三重県観光開発株式会社専務取締役）小沢一男（株式会社ホンダランド営業課長＝鈴木社長代理）＝敬称略、順不同

祝電

坂田道太（文部大臣）磯崎叡（国鉄総裁）篠原良男（国鉄名古屋管理局長）吉田之久（衆議院議員）加藤清二（衆議院議員）山中吾郎（衆議院議員）辻原弘市（衆議院議員）成瀬幡治（参議院議員）左藤義詮（大阪府知事）中馬馨（大阪市長）宮之原貞光（日教組中央執行委員長）日本生活協同組合連合会学校部会・全国学校用品株式会社、坪井明（近畿地区高校修学旅行専用船運営協議会長）兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、並瀬寿（国際交通社社長）寺田鉄（財団法人日本教育公務員弘済会会長）近畿日本ツーリスト神戸修学旅行センター、佐藤近衛（元全修協監事）岡本仁（全修協常務理事）伊藤収蔵（元全修協監事）吉田一三（香川県支部長）森孝太郎（全修協参与）加藤為治（元全修協事務局調査役）＝敬称略・順不同

総会の模様を報道

各紙・NHKテレビも

全修協の創立十五周年総会について各新聞社、放送局はいっせいにその模様を伝えた。二月六日付の朝日新聞、毎日新聞、伊勢新聞掲載記事は次の通り。なおNHKテレビもカラー・ニュースとして放映した。

朝日新聞

（財）全国修学旅行研究協会（山本穣一理事長）は五日、志摩郡阿児町の賢島ロッジで創立十五周年記念式典を兼ねて今年度の総会を開いた。総会には同協会の各都道府県支部の代表者約百二十人と地元の田川副知事、浜田教育長らが出席、報告や記念講演を聞いた。

同協会は修学旅行の改善や向上をはかるという趣旨で十五年前に発足、修学旅行専用の列車、汽船の確保など実績をあげてきた。

席上、今年度の活動結果として①国鉄新幹線を利用する修学旅行の団体料金は四十六年度から高校が二割引、中学生が五割引かれる②生活保護家庭の児童生徒に支給される国の補助金は、中学生が千二百円、小学生が六百円増額され来年度は中学生が七千円、小学生が二千四百円になる、などが報告された。

毎日新聞

【鳥羽】全国修学旅行研究協会（山本穣一理事長）の総会が五日三重県志摩郡賢島の新賢島ロッジで全国の協会支部代表ら百二十人と地元から田川三重県副知事、浜田同教育長らが出席して開かれた。

今年度事業として①新幹線の割引率をとし四月から中学生は五割、高校生は二割に②要保護、準要保護児童生徒に対する修学旅行補助金は四月から中学生七千円、小学生二千四百円とする—など報告があった。旅行補助は前年に比べ中学生千二百円、小学生六百円の大幅アップ。

修学旅行費がかさんできているので、さらに、年度内を目標に補助の一割増額を関係方面に働きかけることを決めた。

伊勢新聞

【鳥羽】学校教育の中で大きな比重を占める修学旅行が適正で有効に行なえるよう研究、実践する財団法人全国修学旅行研究協会設立十五周年記念総会は五日、志摩郡阿児町新賢島ロッジで開かれた。出席したのは田川県副知事ら来賓はじめ各都道府県支部代表ら百二十人。

総会は午前中記念式典、午後は議事を審議した。その結果①修学旅行に新しいコースを開発する②交通災害に対しさらに強力に取り組む③公害教育を考える—などを今後の研究課題とすることを決めた。引き続き伊勢市の神宮文庫、岩田貞雄氏の記念講演「海女のはしりがね」を聞いた。

楽しい行事も

今回の総会は創立十五周年記念にふさわしい行事がたくさんに盛り込まれ、参加者はそれぞれ貴重な体験を重ねたほか見聞を広めることができたと大喜びだった。総会の前日、各都道府県支部長と協力団体役職員の約五十名は午前十一時、近鉄名古屋線の白子駅に集合鈴鹿市にある本田技研の工場二か所を見学、また実際に修学旅行生が宿泊する近代的で清潔な宿舎に一泊、童心にかえったように大はしゃぎだった。

また、総会の終了した六日朝はバスで伊勢志摩スカイ・ラインへ。標高五百五十㍍の朝熊（あさま）山頂にあるレストハウスから伊勢志摩国立公園を展望したあと伊勢神宮に参拝、すがすがしい早春の空気を吸った。

本田技研工場を見学

総会出席の支部長ら協力団体役職員約五十名は二月四日さいきん修学旅行地として話題を集めている鈴鹿市の本田技研鈴鹿工場を見学、同夜は修学旅行宿舎として完成した鈴鹿サーキット・ホテルに宿泊した。これは全修協中央研修部と調研部が企画したもので、七秒間に一台生産する二輪車工場、オートメーションでつくり出される四輪車工場を見学、エンジン教室では係員からエンジンの組み立てを学習、ホンダ・ランド製作の映画「新しい修学旅行」などを鑑賞した。宿舎のホテルは修学旅行専用のもので、収容能力は五百名。

写真は本田技研工場を見学する支部長たち。

東京コマ旅行会館は
第８回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、８階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木１丁目７番地
ＴＥＬ (03)585−1046(代表)

東京 コマ旅行会館

若い心を大きく広げる

豪華観光船 ふじ・にほん丸（旅客定員 1,800名 3,000トン）

見ているだけで、心が大きく広がる海——
修学旅行は海になさいませんか。
日本最大の豪華客船　ふじ・にほん丸が、
生涯忘れえぬ修学旅行へご案内いたします。
純白の船体に若い心をのせて……。

●科学技術の粋をあつめた最新鋭船。
●一流ホテルのような豪華な設備、完全エアコン。
●皆さまのスケジュールにあわせて就航。
●学習講義用ＴＶシステムも完備。
●一般乗客との混乗はありません。

●お問い合わせは●
Ⓐ 大島運輸株式会社 東京支店　東京都中央区日本橋通1の6 浅野ビル ☎(03)273−8911